

# 形だけの公聴会糾弾 わりや、まだビワコをつぶすんか!



## ▶琵琶湖10年延長を糾弾する!

去る6月10日、琵琶湖総合開発10年延長についての公聴会が滋賀県大津市で開かれた。これまでモビラや立テ着等でお訴えてきたように、琵琶湖総合開発というのは下流工業地帯の「水盗り」のためにビワコをメチャクチャにする計画である。当事業は、1972年3月に、10年間の時限立法である琵琶湖総合開発特別措置法の発足と共に始まった。以来10年間、湖岸堤や人工島の建設がある時は礼束である時はアリのバ的な「アセスメント」で反対住民を押さえ込みながら強行的に進められてきた。工事による汀の破壊と人工化、人工島造成=大規模埋め立ては、琵琶湖の生態系を大きく狂わせ、水質悪化に拍車をかけている。

県、水資源開発公団はこの琵琶湖総合開発を、「県民生活を豊かにする」「琵琶湖の汚れた水質を回復し、その保全を図る」「洪水を防ぐ……」といったバラ色の夢でカモフラージュしながら、そして住民が起こしている差し止め訴訟を様々な手を使って妨害しながら、着々と進めてきた。そして今春、琵琶湖特別措置法の10年の期限切れをむかえたわけだが、工事は当初予定の半分も進んでいない。そこで滋賀県知事武村は、東京へ飛んで関係省庁に頭を下げるいは脅して回り、琵琶湖10年延長を「克ち取った」のである。

## ▶琵琶湖じゃ水はきれいにならん!

こうして今春、第二期琵琶湖が「水質保全を充実して新たにスタート」(?)したのである。なるほど、水質保全のための新規事業が加えられたり、下水処理技術に三次処理(栄養素を取り除く)が導入されるなど表面的な努力はうかがえる。しかし例えば三次処理なんかは、技術面からコスト面からも実現不可能だと言われているし、たとえ三次処理を導入したとしても工場排水の下水運受け入れをやめないかぎり、下水道は琵琶湖を汚る装置にしかなり得ない。「下水道を整備して汚れたビワコをきれいに

する」という下水道信仰を利用した工セ理論をふりかざして住民をあざむく、県当局の姿勢(全国どこでも同じだが)は断じて許せない。

滋賀県のいう「水質保全」は、「水盗り」(下流工業地帯による水の奪取)、「工事のための工事」(びわこをいじくり回して破壊して土建屋がもうける)という琵琶湖の本質を、住民の目からおおい隠すためのワラ文句に過ぎないのである。

## ▶アリのバ的な「住民参加」はまっぴらごめんだ!

先日開かれた公聴会は、琵琶湖10年延長について、「広く県民のみなさんの意見を聞くため、滋賀県がわざわざ開催してくれたものだ。しかし県は、公聴会ご反対意見が出たからといって琵琶湖の計画を変更するつもりなど毛頭ない。反対意見を賛成意見も聞くだけ聞いて聞き流して、「住民の合意を得た」と言うのだ。原野の公開ヒアリングみたいなものである。彼らのいう住民参加が、いかにギョウ的なものであるかという事は、安曇人工島建設に際して行われた「アセスメント」を見れば明らかである。県土木部の役人と御用学者(元京大校長奥田東を含む)によって、地元住民や学生、良心的な学者の反対は完全に踏みとじられ、人工島は完成してしまった。……形だけの「住民参加」を断じて許すわけには、いかない。

さて、10日の公聴会では36人の滋賀県民が公述人として意見を述べた。しかしまことに残念な事ながら公述人のほとんどは、県がばらまくバラ色の夢に踊らされ、武村知事の巧妙な見せかけだけの環境行政(有リ合成洗剤を放つてええかこしたのもそのひとつ)に乗せられた人達であつた。琵琶湖反対の立場から意見を述べたごく少数の

# びわ湖研究会

例会：毎週金曜5時半～、理学部動物学教室4回生控室にて

★赤い「琵琶湖研専用掲示板」、写真入り立テ着をよろしく

人を除いてほとんどの人が琵琶線の10年延長をたたえ、流域下水道や湖岸堤等諸事業の推進を!と訴えているのだ。この人たちは過去10年間の開発、土木工事によって琵琶湖がどんなに痛めつけられてきたか御存知ないのだろうか。湖岸堤建設は、<sup>琵琶湖</sup>湖の自然を破壊し、ヨシ群落(湖水を浄化する働きもある)を大巾につぶしてきたし、あの今この手で反村を圧殺して強行建設された矢橋人工島のまわりは、湖でも最も汚れた水域となっている。おまけに、人工島の上につくられている下水処理場からは日夜大量の工場排水が、タレ流されることになる。赤湖連続発生や毎年のように繰り返される臭い水。から毛判るように、今でさえビワコの水は絶望的に汚れているのだ。これ以上の開発は決して許されない!

しかしながら、今の琵琶湖の現実の上立って琵琶線の犯罪性を訴えた人はごくわずかであり、ほとんどの人が、ウソとハッタリで固められた行政のPRをうのみにして「洪水防止上、湖岸堤は必要」「水質保全のため流域下水道の稼働を急げ」「ビワコにも、シマン湖(スイカ)のような立派ななぎさ公園を」と叫び、はなはだしきは、今の住民の反対運動に根も葉もない誹中傷を加える始末であった。



### 「ええかっこ」の裏には何がある?

今回のようなギョウ的な「公聴会」で住民参加の形をとりつくろって、恐ろしい琵琶線をゴリ押ししようとする滋賀県に対し、我々は满腔の怒りをもって糾弾する。だがしかし、滋賀県や水資源開発公団の「ええかっこ」は、これだけではない。昨年夏に環境庁、近畿各府県が一体となって開いた「びわ湖サミット」、武村知事が呼びかけている「びわ湖淀川水質保全基金」等々…。そして、あの有名な「富栄養化防止条例」(=有リン合成洗剤追放条例)もまた、琵琶線という県あげでの自然破壊から住民の目をそらすための、武村知事のスタンドアレーだったと言える。

権力、開発推進者のひけひらかす「ええかっこ」の裏にはどんな意図が潜んでいるのか。それは新聞をみてもニュースを聞いてもわからない。マスコミなんて全く信用できない。だから

### どうしよう『琵琶湖からの通信』を読もう

琵琶線を阻止し琵琶湖を私たちの手に取り戻すたかいは、まさに前途多難である。それでも私たちはねばり強く事実を訴え、地元住民との連帯を強めていく。一人でも多くのおみなさんが、我々の行動に注目されるよう、訴えます。

#### 公開学習会のお知らせ

6月26日(土) 場所未定。「飲み水の危機と琵琶線」詳しくは後ほど報告します。ぜひ御参加を!!